株式会社 キルト

企画制作・施設運営・大衆演劇・音響・照明・映像
千葉県市川市行徳駅前1-9-22
TEL.047-316-1603　FAX.047-316-1604
http://www.kilt-inc.jp

HIRAGANA The Dramatic Company
東京都杉並区荻窪1-5-10
TEL.03-3392-8404
http://www.kilt-hiragana.sblo.jp

対談
代表取締役 矢代 順 × インタビュアー 萩原 流行［俳優］

INTERVIEW
JUN YASHIRO × NAGARE HAGIWARA

イベント業と劇団主宰で、新しい表現活動の場の創造と演劇界の活性化を

萩原　まずは㈱キルトさんの沿革を。

矢代　当社の生い立ちは劇団ヒラガナ（）として、平成十二年に旗揚げし、様々な舞台公演を経て徐々にその活動の幅を広げました。けれど、萩原さんもご存じのことと思いますが、やがて劇団運営の厳しさに直面し「演劇だけでは将来的な存続も危うい」との危機感を覚え、そこまでの活動で培ったノウハウを生かして、平成十四年にビデオ制作を中心とする事業展開をスタートさせました。これが当社の始まりです。一旦、お芝居から離れて、会社をビジネスとして確立するため、手探り状態の日々が続きましたが、数少ないクライアントさんとの繋がりを大切にし、必死になってニーズにお答えしていく中でイベントプロデュース事業、照明・音響部門による演劇企画や台本製作事業、施設運営事業と徐々に仕事の幅を広げてまいりました。

萩原　演劇は「好き」だけでは続けられない厳しい世界ですが、会社まで立ち上げて活躍されているとは、相当この世界と馬が合っているんでしょう。矢代社長と演劇との出会いはどのような形だったのですか。

矢代　小学校時代からの幼馴染に「芝居をしてみないか」と誘われたのがきっかけです。それまでは特に興味があったわけではなかったので「楽しそうだし、時間がある時だけ参加しよう」という軽い気持ちで入ったのですが、気付けば劇団員との一体感や表現する充実感に魅せられ夢中になってしまっていまして（笑）。後に友人になぜ私を誘ったのか尋ねてみると「小学校の時に漫画を描いている姿が印象的だったから」と。ちなみに、その腐れ縁の友人が今の劇団の座長なんですよ。昔から何かを表現するのが好きな性格で、枠に捕らわれない幅広いクリエイティブ活動に興味を持っていましたから、今こうしてこの業界に携わっていられるのも自然な流れだったのかも知れませんね。

萩原　私も「役者になりたい」と志望していたわけではないのに、あれよあれよという間にこの道を歩んでいたんですよ（笑）。さて、劇団立ち上げ前まではどんなお仕事を。

矢代　イベント関連会社で、映像や音楽、演劇、広告など幅広い表現活動のプロデュース及びサポート業に従事していました。その会社員時代に培った経験や開拓していった人脈などが当社の事業展開に大いに役立っていると思います。

萩原　そこで元来持っていた素地を磨かれ、現在の多彩な活動に反映されているのですね。では、活動内容を詳しくご説明下さい。

矢代　実績の一部を紹介しますと、成人式や選挙、行政施設などの運営、それに付随したビデオ・DVD・デジタルアーカイブなどの制作、東京モーターショーやゲームショー、愛・地球博など各種イベントの企画と運営、洞爺湖サミット、APECなどの国際会議への制作面としての参画、商品紹介の台本執筆や、パソコン・デジカメ・ステージワークなどを扱った講座の開催、コンサートや演劇、講演会、上映会の音響、照明、映像制作業務などを行なってまいりました。

萩原　本当に幅広いですね。それも大企業や行政機関との提携が多いようですが。

矢代　そうですね。お付き合いのある大企業さんや市区町村さんとの信頼だけは絶対に裏切りたくないですから、特に真剣に向き合っています。結果としてそれらすべての経験が地元・市川市への地域還元型業務に繋がっていると思うんです。設立当時、仕事がほとんどなく、どん底状態だったつらい時期に不思議と市川市内での仕事だけが細々ながら継続でき、その些細な積み上げから今に至っていると感じています。よって市川市には親近感と共に、どこか感謝の念を持ちながら接しています。その甲斐あってか、最近では様々な都道府県、市区町村との繋がりも増え、様々な地域密着型の事業展開ができるまでになりました。

萩原　御社の実直な仕事ぶりや力量、豊富なアイデアが評判となっているんでしょう。劇団とイベント業をコラボレーションした活動も多いそうですが。

矢代　はい。イベント時に当劇団を使って下さったり、それも単発ではなくコンスタントにご依頼頂いたりと、良い感じで互いの仕事がリンクするようになりました。劇団の旗揚げから十一年、企業体へと転進して九年、ようやく最近、その二つが的確にマッチングしてきているのを感じています。

萩原　従来は「劇団員イコール不安定な生活」という図式がまかり通り、挫折してしまう優れた人材も少なくありません。安定した職を得つつ、芝居に精を出せる環境は羨ましいです。それでは最後に今後の展望を。

矢代　実は展望とか夢とかを聞かれるのが一番苦手でして、どんな言葉を使っても綺麗事のように聞こえてしまうんです。いつでも思い付きで行動し、社員や団員にそれを実現してもらっているだけですね。経営者としては向いてないかも知れません。ただ、その直感的な思い付きが会社の方向性に良い影響を与えているうちは、夢を叶えていると思います。その結果として、社員も団員も誇りを持って活動できる会社であれば嬉しいですね。いつも途中を楽しむフランクな感覚で気楽に継続して行くことが、将来への展望なんじゃないかと思います。たぶん。

萩原　劇団の新しいビジネスモデルとしてより一層のご発展を期待しています。

①INFORMATION